

Senriyama

千里山建築会会報

第 20 号 2008 年 3 月 15 日発行

千里山建築会

〒 564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35
関西大学 環境都市工学部 建築学科内

TEL : 06-6368-1121 (代表)

FAX : 06-6368-0093 (建築学科共通)

Contents

- 会長挨拶
- 副会長挨拶
- 学内の話題
 - ・教室だより
 - ・工学部から環境都市工学部へ
 - ・退職にあたって
 - ・関大建物計画 part 3
- 寄稿
 - ・大学建築との関り
- 事務局から
 - ・スプリングフェスティバル懇親会
～前回の報告と次回開催のお知らせ～
 - ・事業、会計報告
 - ・事務局からのお願い

会長挨拶 // 5期 白崎 清一

建築技術者として、今求められているものは何か。

平成 17 年 11 月に起きた構造計算書の偽造を端緒として「耐震偽装」の問題が連日取上げられた。建築技術者の個人的行為の他に、建築確認申請での審査方法が見直しされたり、すでに建設されたマンションでも鉄筋量不足が数多く指摘されるなど重大な社会現象となってしまう。特に、阪神淡路大震災を経験した人々には信じられない背信行為であり、住宅ローンでやっと購入した財産を失なう破目になった居住者の方々にとっては、「金返せ」だけでなく「人生返せ」という最悪の犯罪行為と言える。

そして、建築行政側は、建築基準法の改正をおこない、建築確認・検査において法律違反を見逃ごさない仕組みづくり(構造計算適合性判定機関による構造審査が義務付け)や建設工事中の中間検査や完了検査も民間機関(指定確認検査機関)が「指針」に基づいて実施することになり、平成 19 年 6 月から施行されている。その改正以降、厳しい手続きのため、作成する側も審査する側も大幅に時間をかけざるを得ない事態となり、建築確認申請件数(すなわち建設戸数)の減少を招いている。

自ら建設不況に拍車をかけることになったわけだが、建築技術者として「ものづくり」の社会的意義を再度考えるべき警鐘と思いたい。日常的な仕事のひとつでも、

「採算がとれる」「納期を間に合わせる」といったレベルだけで流していないだろうか。企業としてのコンプライアンスの重要性が叫ばれており、徐々に会社人である前に社会人としての立場で発言できる社内環境も育ちつつある。自分たちの「技術」をどう生かすか、少しでもお客様(居住者、地域住民、子供や高齢者、身障者など)の安全・安心・快適に貢献できるように、自分に何ができるのかを考えて日頃から行動したいものである。

昨年からの食品偽装事件は、今なお続いている。原材料の「偽」や消費期限の「偽」など消費者を無視した「儲け主義」は、国内に止まらず冷凍食品での中毒事件など諸外国にまで広がり、「住」の社会的不安が「食」にまで及んでいる。一度失った社会的信用の回復が難しいのは、JRをはじめ実感できるところだが、決して他人事では済まされない。

関西大学建築学科で何を学んだかは別として、建築技術者として大切な心構えだけは、見失わないようにしたい。また「悪」や「偽り」を事なかれ主義で見逃ごさない勇気も持ち続けたい。

最後に、千里山建築会が少しでも皆様の情報・意見交換のお役に立てるように、これからも努力して参りますので、御助言ご協力くだされば幸いです。

社会へ出ると学校では学んでいない「労働安全衛生法」が重要となってくる。特に建設現場ではこれがわかっていないと仮設計画すらできないし、施工中の様々な問題に対処できない。また、設計者もMSDSを含め化学的な要素をも知らないと調査、設計すらできない。改修工事調査などで点検口から天井内を覗くのもどういう措置が必要かわかっていない。TV番組での解体方法が違法だということすら一級建築士がわかっていない。どこが匠でコンプライアンス(狭義の)なのだろうか？

デザイン優先で設備配管の勾配すら取れないマンション。設備と構造の連携がなく断面欠損がひどい建物。配筋・配管だらけでコンクリートが廻らない断面構造。

学内の話題

教室だより // 建築学科長 藤田 勝也

この3月で着任後わずか2年という若輩者であるにもかかわらず、学科教育主任(学科長)などという大役を今年度おおせつかり、多忙中にも充実した日々を過ごさせていただいております。建築史が専門で、永井規男先生の後任という、これもまた「大役」を与えられました。どこまで果たせるものか、はなはだ心許ない次第ですが、先生が38年間おられた研究棟5階の東南角に「住み着く」という点では、今のところは何とかそれなりに役割を担わせていただいているのかもしれません。千里山建築会の皆様、卒業生諸氏には、あらためまして、よろしくお願ひ申し上げる次第です。

さて、学内の近況ですが、学部改編で環境都市工学部に属することになって、ほぼ1年が経過しました。カリキュラムの改編にともない、新学部でのスタートとなった新1年生には、フレッシュマンゼミナールなど新科目も開講されています。学部名称の変更は、旧工学部の上級生にはやや違和感があるようですが、建築学科では学科名称を変えることなく、コース制を導入することもなく、従来の学科構成をほぼ堅持し得たことは、全学規模の再編の渦中であってなお安定的な学科運営の継続と今後の発展に資するところ大きいのではないかと思います。学生の就職状況は今年も依然好調を堅持しています。学部改編がこれにどのように影響するのかは、しばらく見守る必要があるようです。

学科が取り組んでいる新たな活動としては、現代GP(グッド・プラクティスの略です)がスタートしました。学部全体としてのプログラムですが、本学科の江川直樹先

ISOといいながら現場の配筋チェックすらできない企業。現場で施工図を引かないから下請任せで段取り屋になっている大手ゼネコン。などなど挙げればきりが無いのが現状である。

国交省の経審にしても連結で判断しないから、本体の赤字清算会社を持っている会社の方が倒産もせず頑張っている会社よりも点数が高いという矛盾。

現在、社会の複雑化とともに建築は様々な課題を抱えている。

「千里山建築会」会員の知識・知恵を利用して建築に絡む様々な問題を真摯に解決していきませんか？そんな情報発信・交換ができ会員のお役に立てれば幸いです。

生が主導的役割を果たされ、兵庫県丹波での実地教育が今後、本格的に進行します。また八尾眞太郎先生の呼びかけのもと、国土交通省からの補助事業「伝統建築」に関する研究開発を、学科全教員参加のプロジェクトとして進めているところです。

人事関連では、2007年4月1日付で、西澤英和先生が京都大学より准教授として、宮崎ひろ志先生が兵庫県立大学より専任講師として着任されました。西澤先生は新設の建築保存工学研究室のご担当、宮崎先生は建築環境工学第Iの所属です。また同日付で松田敏先生、岡絵理子先生が専任講師から准教授に昇任されました。さらに旧工学部教養情報処理教室の鈴木三四郎助教授が本学科教授として移籍・昇任され、新設の建築情報処理システム研究室を担当されています。また同日付で、榊井健先生が大学院博士前期課程の指導資格を取得されました。このように学科構成・陣容に一層の充実がはかられたことで、今後の教育・研究の進展が期待されます。そしてまた、河井康人先生が副学部長として学科・学部ならびに大学運営にご尽力されているところです。

いっぽう残念なお知らせです。今年度末、丸茂弘幸先生が満65歳の定年をもって退職されることになりました。今後も継続してご指導をいただけるものと勝手に思いこんでいたわれわれ学科教員、いや少なくとも小生にとって、退職のお申し出は、まさに青天の霹靂。文字通り余人をもって代え難い「人材」の喪失であること間違いなく、来年度からその穴をどこまで埋められるのかどうか、とにもかくにも様々な局面での対応が求められる

こととなります。

着任した頃すでに総合学生会館・凜風館は新築された後で、キャンパスの景色は以前とは一変したとも仄聞しております。その後も凜風館隣接の諸建物が撤去され、芝生広場・悠久の庭などが生まれました。この学生たちの憩いの場に夕刻灯されるイルミネーションは、景観に一層華やかな彩りをそえています。凜風館東方のテニスコート跡地に、第4学舎3号館の建設工事が進行中で、施設のさらなる整備・再編が予定されているところです。

こうしたキャンパスの整備・拡充、それにとまなう景観の大きな変化もまた大学改革のうねりを反映するものと

工学部から環境都市工学部へ ～2007年4月工学部が生まれ変わりました～ // 7期 伊藤 淳志

関西大学工学部建築学科は、昨年(2006)の4月1日より関西大学環境都市工学部建築学科となりました。

これまでの工学部は、関西大学で唯一の工学系の学部として、工学領域のほぼすべてをカバーする11学科で構成されていました。これらが、「システム理工学部」、「環境都市工学部」、「化学生命工学部」の3学科に改編され、全体で9学科の構成となりました。各学部とも「つくる」をキーワードとしており、システム理工学部は「しくみづくり」、環境都市工学部は「まちづくり」、化学生命工学部は「ものづくり」をそれぞれ学ぶということをコンセプトに掲げています。

新学部の特徴として、次のようなことが挙げられます。まず、システム理工学部にはその名の示すとおり、「数学科」および「物理・応用物理学」の理学系の2学科が新設されました。皆さんが在学中、教養科目の数学や物理学の授業でお世話になった先生方が主に担当されています。次に、最近の環境問題や人口増加などの課題を解決するための環境、生命系の学びを充実しており、学部、学科等の名称にも反映されています。三つ目として、講義や演習などのカリキュラムを教育プログラムという観点で捉え、各学科にコース制を導入して、より専門的な知識や技術を蓄積できるようにしています。入学時には学科のみを指定して受験しますが、基礎科目を修得した2年次の後期あるいは3年次の前期(学科によって異なる)に各自の興味や適正に応じてコースを選択します。なお、システム理工学部の数学科および環境都市工学部の建築学科は単独のコース(これまで通り)です。

わが環境都市工学部についてもう少し詳しく説明します。環境都市工学部は、建築学科、都市システム工学(旧都市環境工学科、以前の土木工学科)、エネルギー・

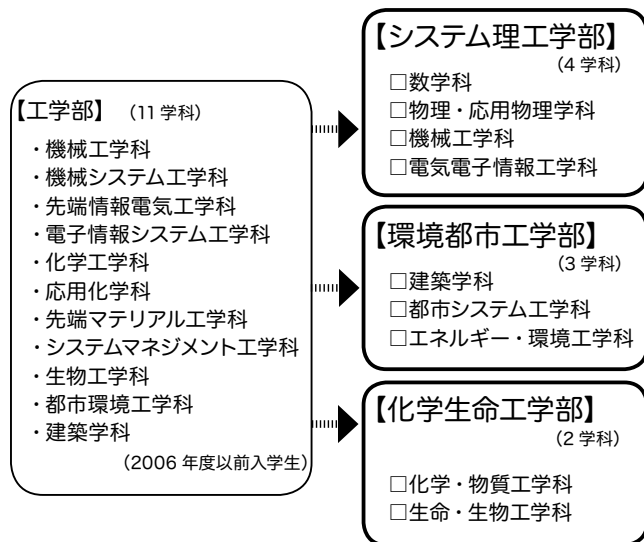
感じられます。建築学科もいわゆる改革の波から免れるわけにはゆきません。しかし、だからこそ、建築学という豊かな伝統のある、そして知れば知るほど新たな興味の尽きない大きな学問体系に身をおくものとして、原点に立ち返り、研究・教育についてじっくり考えてみる、今はそういう時期なのではないか、とも考えています。

多方面で活躍されておられる卒業生諸氏、千里山建築会の皆様方には、転換期にある本学科に対して今後とも一層の温かいご支援ご鞭撻を賜りますよう、末筆ながらお願い申し上げることをもって、教室だよりの拙文を閉じさせていただきますたく存じます。

環境工学科(旧化学工学科)の3学科で構成されています。「都市におけるよりよい住環境の実現や都市設計など、地球規模のまちづくりを学ぶ」をコンセプトとし、旧3学科に旧システムマネジメント工学科(以前の管理工学科)の一部の先生方が都市情報システムコースの担当者として加わっています。

関西大学に工学部が誕生したのは昭和33年で、建築学科は昭和42年に開設されましたが、一昨年(2006)4月の新入生が平成22年に工学部最後の卒業生(第40期)となります。工学部という名称はなくなりますが、建築学科は基本的にこれまでとほとんど変わりはありません。ただし、カリキュラムの見直しを行い、より充実した授業科目の構成となっています。卒業生の皆様には新生の建築学科により一層のご支援と、千里山建築会へのますますのご協力をお願い申し上げます。尚、より詳しい内容および入試関連の情報につきましては、関西大学のホームページをご覧ください。

<http://www.kansai-u.ac.jp/index.html>



この三月によいよ定年退職いたします。就任してからちょうど20年、必ずしも長い方とはいえませんが、それでも2,500名ほどの卒業生を見送ってきたこととなります。バブルとその崩壊に始まるこの20年がとても平穏なものであったとはいえないだけに、卒業された諸兄がそれぞれ今どんな仕事をし、どんな生活を送っておられるのか、気になるところです。

長い冬の時代を経て、就職戦線にもこのところようやく曙光が見え始めたとはいえ、建築や都市を巡る社会経済状況の見通しはまだまだ厳しいものがあるように思います。出来の良し悪しは別として、日本という国が一応は出来上がってしまった国であるところが、おそらく問題の根底にあるのでしょう。成熟段階に達した社会に共通するこうした閉塞状況はそう簡単には変わらないかもしれませんが、しかしいずれそれほど遠くない日に変わるような気もいたします。根拠はありませんがイメージがあります。このところ元気のよさが目立つイギリスです。私が若いころミルトン・ケインズ開発公社に勤めていたころを思い起こすと、変われば変わるものだとつくづく思うのです。

こういう機会ももうあまりないかと思しますので、ここで若気の至りからきたミルトン・ケインズでの失敗談をひとつ披露させていただきます。公社に就職してしばらくしたある日、ユニオン(労働組合)の新聞に載せるのでクリスマスと新年の挨拶をひとこと寄せるように頼まれました。事情もよくわからないまま気楽に引き受けた私は、定型のあいさつ文の前にひとこと“Greetings from the Island of Sunrise to the Island of Sunset”と付け加えてしまったのです。私の意図としては、ユーラシア大陸の東にある島国から西にある島国へという純粋に地理学的なイメージを少し文学的に伝えたいということしかありませんでした。もちろん、聖徳太子が「日出る国の天子、日没する国の天子に申す・・・」の書を「隋の煬帝」に送り、その怒りを買ったという例の故事は念頭にありましたが、ユーモアを解することで知られたイギリス人のことです。いわくを説明すればきっと面白がってくれるにちがいないという程度に軽く考えていました。

ところが、この表現は1300年余りを経てもなお鬼門でした。クリスマス休暇を終えて職場に顔を出してみると雰囲気がおかしいのです。皆なんとなく私を避けているようです。やがて私の軽率な一文がもとでちょっとした騒ぎが起こっているらしいことを仲間の一人が教えてくれました。開発公社の職員が加入しているユニオンは他のニュータウン開発公社のみならず、すべての地方政府の職員が加わった巨大な組織であり、ことはミルトン・ケインズの中だけの問題ではないことをそのとき初めて知りま

した。新聞を見て確かめようにも、少なくとも公社内では差し止めになってしまったようで手に入りません。私はしかるべきところに呼び出されて説明を求められるはめに陥りました。

そのときわれわれのグループ・リーダーの一人が穏やかな口調で「沈んだ日は必ずまた昇るはずですよ」と言ったのを覚えています。アメリカの大学で都市計画を教えていたという彼は、若造ばかりのグループのよき取りまとめ役で、おそらくこの一件に関してもいろいろと気を使って穏便に事を収めてくれたのだらうと思っています。

あれから35年、英国病といわれ、ヨーロッパのスーパーマーケットなどと揶揄されていたイギリス、<斜陽>といわれることにそれほどまでに傷つきやすくなっていたイギリスが、いまやわれわれ日本人にはちょっと近づきたいほど高価な国になってしまいました。ミルトン・ケインズという新都市自体、イギリスの経済社会を牽引する最重要成長拠点のひとつとして、新たな成長戦略のもとで大きく発展しようとしています。プロフェッサー氏の予言どおりに日はまた昇ったのでしょうか。

日本もどうやら周囲から日本病と揶揄されかねない時代に入りつつあるのかもしれないかもしれません。たとえそうだとしても、いずれそこから脱する日もそう遠くないのではないかと、さしたる根拠もなく思うのはこのイメージがあるからです。その日が来るまで、卒業された諸兄が皆無事に凌ぎきってくれることを祈らずにはられません。

この失敗が私に教えてくれる教訓がもうひとつあります。人は知らず知らずのうちに如何に容易に人を傷つけてしまうかということです。とりわけ教師は学生を傷つけやすい。教師は学生に対してかなり言いたい放題のことを言いがちですが、学生はそれにほとんど反論できません。心ならずも私の発言や行為で傷を負わせてしまった学生が2,500名の卒業生の中におられるに違いない。身に覚えのある諸兄、あるいはいまだ傷を抱えたままの諸兄、平にご容赦のほどを。

最後に千里山建築会のますますのご発展を祈念しつつ、かつては卒業生を送るために用意した駄句を今日は私自身のために添えさせていただいて、退職のご挨拶に代えさせていただきます。

「会えばすぐあの日に帰る千里山」



1. 近年の計画

第17号(2004年発行)に続いて3回目です。

第17号で紹介させていただきました以後、

次の計画が完了しております。【 】内は竣工年月。

- ・工学部第6実験棟 【2005.09】
- ・ドミトリー月が丘 【2006.01】
- ・総合学生会館 メディアパーク 凜風館 【2006.02】
- ・以文館 【2006.03】
- ・簡文館 【2006.03】
- ・KUシンフォニーホール 【2006.03】
- ・高槻キャンパス アイスアリーナ 【2006.07】
- ・六甲山荘(別館) 【2006.11】
- ・誠之館8号館(養心館) 【2006.12】
- ・月が丘住宅(QOL改善提案モデル) 【2007.02】
- ・第1学舎5号館 【2007.03】
- ・関西大学 東京センター 【2007.03】
- ・千里山 北広場 【2007.07】

【工学部第6実験棟】

RC造 地上4階建 延床面積:3,295.14㎡

この建物は建築学科になじみのある「土木工学・建築学実験場」とその向かいにあった「機械実習工場」(旧電子工学実験場)を取り壊し、RC4階建ての建物といたしました。「土木工学・建築学実験場」にあった2軸同時振動試験装置や環境シミュレーション装置を新しい建物に保管・移設し、遠心載荷装置等新しい実験機器も導入されております。

【ドミトリー月が丘】

RC造 地上4階地下1階建 延床面積:3,341.08㎡

昭和44年に建てられた旧「北斗寮」を改修して女子寮としました。併せて名称も「ドミトリー月が丘」といたしました。「北斗寮」当時は4人部屋であったものを2人部屋とし、食堂、パントリー、浴室、EVの設置、耐震改修を行い、外観を薄紫色のタイルに変更いたしました。寮内では世界各国からの留学生と日本人学生がルームメイトとしてペアで生活しております。

【総合学生会館 メディアパーク 凜風館】

RC造一部SRC・S造 地上4階建

延床面積:10,482.07㎡

コミュニケーション広場の創出を基本コンセプトに、創立120周年記念事業の一環として建設されました。情報端末を多数設置し、学生の情報収集・発信の場として活用、学生食堂の機能充実や購買部等の充実を実現しております。



また、環境に配慮し十数項目(太陽光発電システム(ソーラーフェンス)、風力発電システム、コージェネレーションシステム、屋上庭園、Low-E 複層ガラス、井水・雨水利用システム、生ゴミ処理システム、ECOディスプレイ等)のエコ対策を講じております。

平成19年10月19日に第6回屋上・壁面・特殊緑化技術コンクールで屋上緑化大賞の国土交通大臣賞を受賞、また、平成19年12月5日にCASBEE(建築物総合環境性能評価システム)の評価認証(Sランク・学校としては全国初)を得ました。



【以文館】

RC造 地上4階建 延床面積:3,779.47㎡

平成15年に竣工した以文館を増築する形で建てられました。主に、大学院文学研究科「人間活動理論研究センター」(2階・4階)東西学術研究所「アジア文化交流研究センター」(3階・4階※4階は共同利用)の2研究センターのプロジェクトが、文部科学省『平成17年度私立大学学術研究高度化推進事業「学術フロンティア・センター整備事業」』に選定され、「岩崎記念館別館」を解体し、法科大学院として使用されている以文館の北側に増築しました。1階は食堂スペースとして学生の憩いの場として活用されております。



【簡文館】

RC造 地上4階建 延床面積:1,577.06㎡

本学博物館「なにわ・大阪文化遺産学術研究センター」が文部科学省『平成17年度私立大学学術研究高度化推進事業「オープン・リサーチ・センター整備事業」』に選定され、「簡文館」の一部(旧書庫部分とスロープ)及び「第1学舎1号館」の一部を解体し既存建物に増築しました。



【KUシンフォニーホール】

RC造 地上2階地下2階建 延床面積:970.67㎡

昭和37年竣工の誠之館4号館(特別講堂)の経年劣化を改善するに当たり、現在多目的に利用されている状況に併せて、音響・照明・映像設備等を更新しました。また上記凜風館コ・ジェネレーションの排熱を利用した空調設備を導入することにより、快適性を向上させました。改修に合わせて名称も変更いたしました。

【高槻キャンパス アイスアリーナ】

S造 地上2階建 延床面積：3,598.50㎡

一般学生の基礎体力強化や大学及び高等学校のアイススケート部やアイスホッケー部の更なる技量の向上を目的として、大学に常設する国際試合が可能なスケートリンクとしては、本邦初の建物であります。ご存じのとおり、フィギュアスケートの高橋大輔君、織田信成君他将来有望なスケート部員のホームリンクです。



リンク製氷システムは大阪ガスと共同開発の、ガス小型熱源集中設置・運転台数制御方式 (GHP[ICE RINK = Ice Control Eco-system Reducing Investment by Non-step-program at Kansai-university] システム) を採用し、従来の一般的なシステムに比べ、年間の製氷エネルギーが約10%節減でき、CO₂も27%削減できる地球環境に配慮した画期的なシステムとなっております。



【六甲山荘 (別館)】

RC造 地上2階地下1階建 延床面積：488.05㎡

既存六甲山荘 (本館) の隣地にあった丸紅株式会社所有の山荘を買い取り改修、併せて54人程度が研修できる研修室と、本館へ別館の渡り廊下を設置しました。既存六甲山荘 (本館) の定員32名を33名とし、別館の改修により洋室3名定員が4室、和室4名定員及び5名定員が1室ずつ増えることにより、本館・別館あわせ定員54名となりました。

【誠之館 8号館 (養心館)】

RC造一部S造 地上2階建 延床面積：2,257.92㎡

後述いたします千里山北広場計画で、計画地にあった射撃部射撃場を解体し、千里山北広場の擁壁を兼ねて建築しました。建物の屋上は北広場と同じ高さとして、1階を射撃場 (射距離50m)、2階を柔道場と剣道場、屋上をアーチェリー場 (射距離70m) と有効に活用。



養心という命名は学長が、射撃場、柔道場、剣道場、アーチェリー場など、学生スポーツのなかでも、とりわけ心の冷静さ、平常心が必要とされる競技なので、『孟子』『荀子 (じゅんし)』『淮南子 (えなんじ)』など多くの儒教の古典にでてくる「養心」という言葉を選んだ。

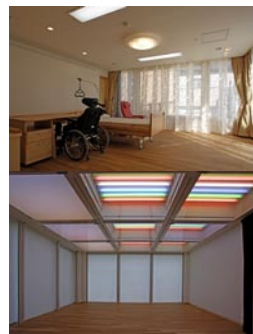
【月が丘住宅 (QOL改善提案モデル)】

W造 地上2階建 延床面積：276.50㎡

我が建築学科をはじめ、内外の研究機関と共同研究を通してQOL(Quality of Life, Quality of Living)に係る改善・提案策を実証するための実験住宅として建設されたものです。文部科学省『平成18年度私立大学学術研究高度化推進事業「学術フロンティア推進事業」』に採択されました。



建物は大きく4つのゾーン (A：住居体験ゾーンへリビングのようなベッドルーム～、B：LDK実験ゾーン、C：動作シミュレーションゾーン、D：照明環境実験ゾーン) に分かれており、研究ユニットの共同研究を円滑に推進するばかりでなく、QOL改善のための実践的研究、成果の社会への公表、及び評価を受ける場である実証実験住宅として活用されております。



【第1学舎5号館】

RC造一部SRC・S造 地上6階建 延床面積：9,519.16㎡



平成19年4月に開設された政策創造学部の学舎が必要になることと、建築後50年経過している第1学舎1号館を将来建替える際の建築工事中に、一時減少する教室の代替施設として利用、併せて法学部・文学部の教室面積確保できることなどの理由から建設しました。阪急千里山駅からのアプローチ (徒歩約7分) も視野に入れて計画しました。

【関西大学 東京センター (サピアタワー内)】

S・SRC・RC造 地下4階 地上35階建
延床面積：78,939.19㎡の9階 637.50㎡

平成15年にJR東京駅八重洲南出口前にオープンした「関西大学東京センター」は本学学生の就職活動の拠点として、例年11月から6月の間、毎年700人を超える学生に愛用されてきました。平成19年3月にJR東京駅日本橋口に直結して「サピアタワー」が新築されたのと同時に9階に移転し、首都圏におけるより強力な情報発信拠点として、再スタートすることとなりました。

【千里山 北広場】

平地面積 (人工芝)：7,250.00㎡

千里山キャンパスにおける、学生等のアメニティスペース不足を解消するために、多目的に利用できる広場を造成・整備して、アメニティの向上を図りました。併せて災害時の緊急避難場所としての地域貢献を推進し、また、不審火や不審者に対する防災・防犯の効果を上げました。

2. 今後の計画

平成19年度に計画されている事業は次の通りです。

- ・第1学舎1号館建て替え
- ・第4学舎3号館新築
- ・高松塚古墳壁画再現展示室



平成20年度に計画されている事業は次の通りです。

- ・第2学舎2号館建て替え
- ・エスカレーター設置
- ・総合研究室棟
- ・校友・父母会館
- ・高槻新キャンパス計画

以上



寄稿

大学建築との関わり // 25期 南 大造

私が関西大学建築学科に入学したのは1991年であり、世の中はバブル景気と呼ばれた時代から徐々に景気が低迷していく最中でありました。大学入学時から同大学大学院(工学研究科建築学)修了までの丸6年間は、そのような世間の情勢とは関係なく、千里山キャンパスで建築を大いに学び、大いに学生時代を楽しむ日々を過ごしました。

さて、社会人となって10年が経ち、このような懐古的な話をするには理由があります。その理由は、修了後、(株)竹中工務店に入社し、数年後、関西大学の建築工事担当として赴任したからであります。就職活動時は、“どうせ職につくのなら、技術屋として建築を第一線で造りあげる仕事に携わりたい!”との思いで、当時所属していた研究室の恩師、山肩邦男先生と伊藤淳志先生に相談に乗って頂き、またご助言を頂き、建設業の道を進んだのですが、まさか自分が、我が母校の発展に微力ながらも寄与できると思いませんでした。



第3学舎



総合学生会館メディアパーク凜風館

着任後は関西大学第3学舎増築(3号館、4号館)工事から、総合学生会館メディアパーク凜風館建築工事に至るまでの丸5年の期間を工事担当として関西大学の建築に携わることができました。関西大学の建築は、まさに“創りこむ”といった言葉が適していることを携わってみてよく分かりました。

現在は、千里山から遠く離れた千葉県で勤務しておりますが、学生時代から、社会に出ても関西大学に関わられたことを光栄に思うと共に、このようなすばらしい経験(運命?)に出会えるきっかけを与えて頂いた関西大学建築学科の先生や関係者の方々には感謝しております。

最後に、工学部が3学部革新され、建築学科が環境都市工学部に含まれたようですが、これからは更なる学科の躍進を心より願っております。

事務局から

スプリングフェスティバル懇親会

平成19年4月8日、スプリング・フェスティバルが開催されました。薄曇りのお天気でしたが、キャンパスの桜はちょうど見頃で、午前中より多くの卒業



生が来校されました。例年通り、千里山建築会も建築学科会議室にささやかな懇親の場を設け、世代を超えた交流を図りました。施設課勤務の市原さんによるキャンパスツアーも恒例となりました。今回は、生協跡地にできた人工芝の広場・悠久の庭、新学部である政策創造学部の第1学舎5号館、近年新築・改修した体育施設（養心館、中央グラウンド）を巡りました。



今年のスプリングフェスティバルは下記のように開催致します。年度初めの忙しい時期ですが、今年こそ懇親会にご参加いただき、キャンパスの変貌をお確かめ下さい。桜満開のこの時期は、千里山の一番美しい時です。関大前通りもかなり変わりました（阪ビリ、なくなりました）。一方、変わらず健在の‘老舗’もあります。卒業以来、久しく千里山を訪れていない方、古い記憶をたどり、また新しい千里山の雰囲気味わってみませんか？

【スプリングフェスティバル懇親会の日程】

日時：平成20年4月6日（日）14:30～16:30
 場所：建築学科会議室（2号館研究棟6階）
 会費：1,000円（ただし、同伴家族は無料）

飲み物・スナックなどを用意しておりますので、ご家族、ご友人とお気軽にお立ち寄り下さい。予約は不要ですので、直接会場にお越し下さい。

事業、会計報告

平成18年度会計報告（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

収入の部		支出の部	
繰越金	2,141,796	印刷費	29,400
スプリングフェスティバル会費	16,000	通信費	211,710
総会会費	952,000	事務用品	20,515
会員会費	102,000	謝金	86,000
銀行利息	294	幹事会・懇親会補助	32,775
		総会懇親会費	428,058
		記念写真費	76,600
		スプリングフェスティバル	25,000
		弔電・供花	23,215
		雑費（振込手数料）	100
		繰越金	2,278,717
合 計	3,212,090	合 計	3,212,090

繰越金明細	
郵便定額貯金	1,000,000
郵便普通貯金	330,102
りそな普通預金	876,523
現金	72,092
合 計	2,278,717

平成18年度事業報告（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

平成18年度に実施した主な事業は次の通りです。

平成18年

- 4月2日 第1回幹事会開催
- スプリングフェスティバル懇親会開催
- 6月24日 第2回幹事会開催
- 8月30日 第3回幹事会開催
- 9月16日 第4回幹事会開催
- 9月23日 千里山建築会総会・懇親会開催
- 10月28日 第5回幹事会開催
- 12月16日 第6回幹事会開催

平成19年

- 3月15日 会報第19号発行、会費納入者に郵送
- 3月20日 卒業式にて新会員勧誘、卒業写真撮影

事務局からのお願い

千里山建築会では学内サーバーにホームページを設けています。イベントのお知らせや会報のカラー版なども掲載しておりますのでぜひご覧下さい。

<http://www.arch.kansai-u.ac.jp/senri2003/index.htm>

同期会やゼミ同窓会を開催されたときは、写真などを添えてそのときの様子などをお知らせ下さい。会報に掲載させていただきます。また、住所や勤務先に変更のあった方は千里山建築会までお知らせ下さい。